

## 編集後記

本冊子の成立の経緯は、冒頭における発行人による解説の通りであるが、三千近い史料をリスト化しその重複度をチェックし原稿を編集し校正するという作業に携わる内に、編集人個人の意見として、史料の重要度を測るという本来の目的よりも、より大きい目的があるのではないかと思うようになった。ヨーロッパ統合の歴史的パースペクティブに関する研究は我が国では緒に付いたばかりだが、これを発展させる基盤は、欧州統合が歴史研究の豊穡なフィールドであるという共通理解が生まれるか否かにかかっているのではなかろうか。欧州統合の歴史的な史料が斯くも膨大であることは、本冊子を手にとって頂ければ実感して頂けるだろう。付け加えるならば、オリジナルな欧州統合史研究を行うのであれば、本冊子に収録されている史料だけでは全くの不十分であるし、重複している史料を抜書きしたところで、統合史が描きだせるわけでもない。ヨーロッパ統合が歴史の中で既に蓄積した構築物の重みと複雑さを一端でも伝えることが、歴史研究者としてはより重要ではないかと思う。

それにしても、データ入力は何時まで経っても完了せず、常に未完のプロジェクトになるかも知れぬと恐れていた。入力以上に校正作業も膨大な労力を必要とした。しかし、二〇〇三年度末の終わりに合わせて何とか発刊することが出来た。発刊が遅れたのはひとえに編集人の怠惰故である。データ入力・索引作成の作業の労に当たった、林詩庭、石神圭子、板橋拓己のお三方に深く御礼を申し上げたい。三方の誰かが抜けてもこの冊子は完成しなかった。本冊子が、日本のヨーロッパ統合史研究、ひいては戦後ヨーロッパ史研究の発展になることを願うばかりである。

(編集人)